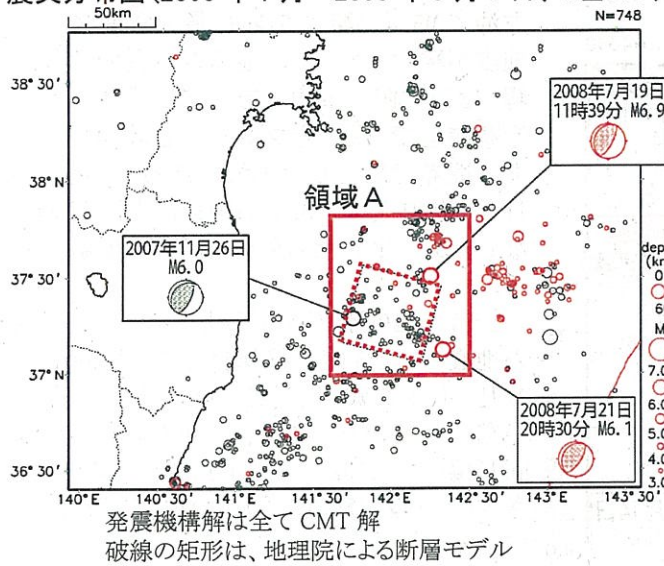


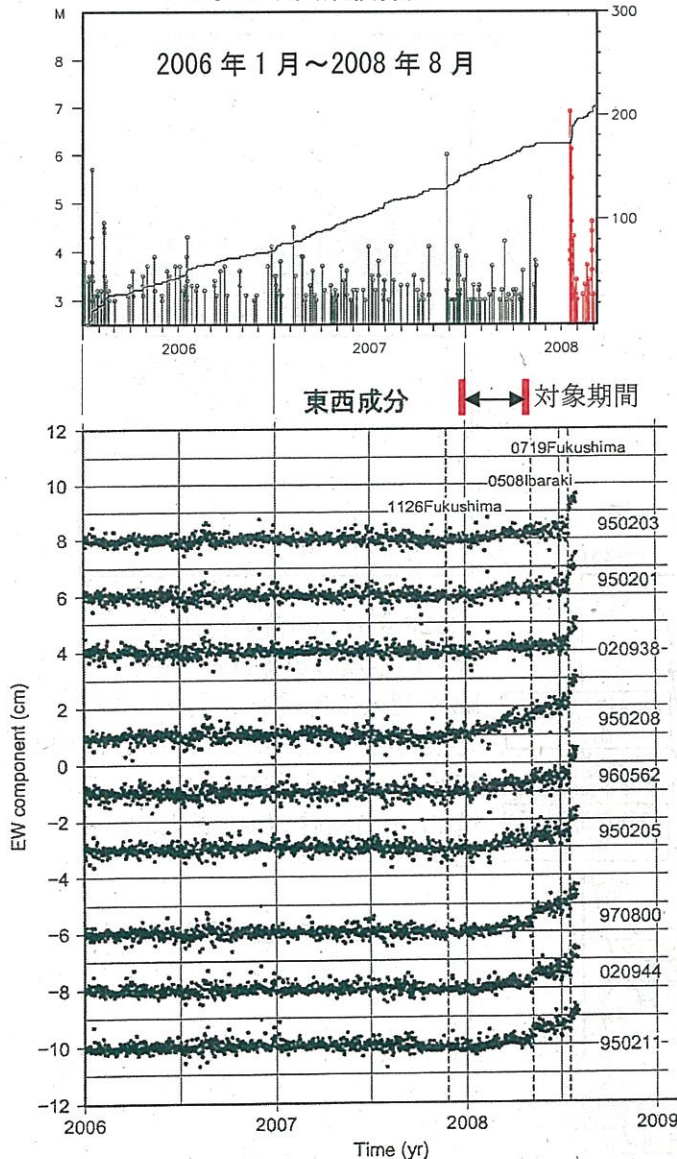
# 2008年7月19日福島県沖の地震前後の地震・地殻活動

福島県沖で2008年5月の茨城沖の地震後に静穏化、その後M6.9発生

震央分布図(2006年1月~2008年9月7日、 $M \geq 3.0$ 、0-60km)



上図領域Aの地震活動経過図  
および回数積算図



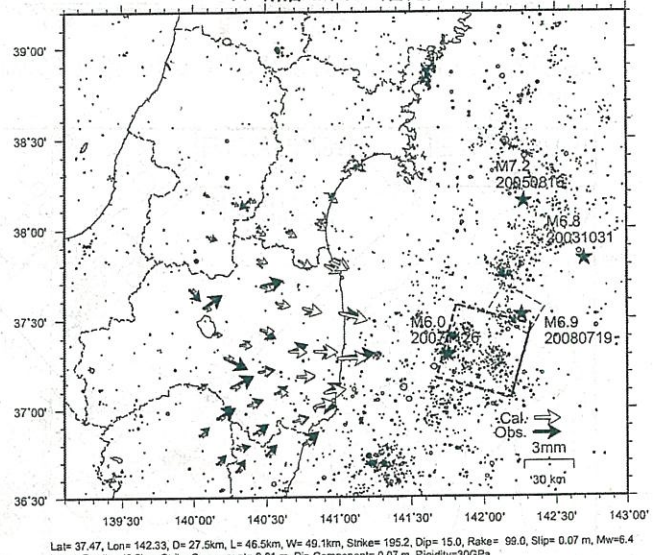
(国土地理院：第178回地震予知連絡会資料に加筆)

国土地理院から、2007年11月26日の地震(M6.0)と2008年7月19日の地震(M6.9)の震源の間の領域で、 $M_w 6.4$ に相当するプレート間すべりが発生していたと考えられるという報告(第178回地震予知連絡会資料)があったことから、当該地域の地震活動について見てみた。

国土地理院によるGPS観測期間(基準期間: 20071222-20080101、比較期間: 20080421-20080501)に特段の変化は見られなかった。

ただし、本年の5月中旬から7月19日の地震の前2ヶ月間に、地理院によるモデル断層の周囲(領域A)で $M \geq 3.0$ の地震が全く発生しない状態が続いていた。

## 4. 断層モデル(暫定)



Lat= 37.47, Lon= 142.33, D= 27.5km, L= 46.5km, W= 49.1km, Strike= 195.2, Dip= 15.0, Rate= 99.0, Slip= 0.07 m,  $M_w=6.4$   
Lower Depth= 40.2km, Strike Component= 0.01 m, Dip Component= 0.07 m, Rigidity= 30GPa

○は気象庁一元化震源による震央分布(20071201-20080430)  
細破線で示す矩形領域は、2008年7月19日福島県沖の地震の地震時の断層面。

基準期間: 20071222-20080101  
比較期間: 20080421-20080501